

## 第6回府中市都市・地域交通戦略（分倍河原駅周辺地区）推進協議会 会議録（要旨）

■開催年月日 令和5年12月22日（金） 午後3時30分から午後4時30分  
まで

■開催場所 府中市役所府中駅北第2庁舎3階会議室

■出席委員等 12名（名簿順）

森本章倫委員、大門創委員、関澤貴史委員、小島朋巳委員、鴫田正明委員、渡利篤史委員、中原幹委員、倉科大地委員（代理：田草川氏）、濁澤雅委員（代理：秋川氏）、早田俊介委員、山岡法次委員、野口勉委員

■事務局

浅野副市長、江内田財産活用課公有地担当主査、古田地域安全対策課長、轟道路課長、山下部計画課交通企画担当主査、日原まちづくり拠点整備推進本部長兼分倍河原駅周辺整備担当主幹、川村分倍河原駅周辺整備担当主査、賀戸分倍河原駅周辺担当主査、松尾主任、岡村主任、鷹野事務職員、関事務職員

■欠席委員 2名

松木拓委員、小池毅委員

■傍聴者 2名

■議事次第

### 1 開会

副市長あいさつ

### 2 議題

(1) 地元住民との協議状況について

(2) 都市・地域交通戦略について

① 駅前空間整備と自転車動線の考え方について

② 施策の進捗状況及び実施プログラムについて

③ 都市・地域交通戦略の更新・見直しについて

(3) 都市・地域交通戦略推進協議会のスケジュールについて

### 3 その他

## ■会議概要

### 1 開会

【事務局】 定刻になりましたので、事務局からお知らせいたします。引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から時間短縮に努めてまいりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。それでは、開会に先立ち府中市副市長の浅野よりご挨拶申し上げます。

【副市長】 本日は、年末の大変お忙しいところ、皆様お集まりいただきありがとうございます。また、日頃より分倍河原駅周辺のまちづくりにつきましてご理解、ご協力をいただき改めて感謝申し上げます。

今回は、高野市長から預かった諮問文を会長にお渡しするとともに、ご審議いただいた上で答申をいただくということを委員の皆様をお願いし、基盤整備の考え方や都市・地域交通戦略の見直しなどについて活発なご議論をいただきました。今回は、前回ご議論いただいた整備の考え方や交通戦略の評価指標などについて、本市の考え方を再度整理させていただくとともに、市と一体となって分倍河原のまちづくりを進めているまちづくり協議会の開催状況についても報告させていただきます。

本市としましては、分倍河原駅周辺地区のまちづくりを推進する上で要となります。都市・地域交通戦略に掲げる施策を着実に実現するため、引き続き委員の皆様から貴重なご意見を賜りたいと存じていますので、本日も忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

【事務局】 ここで事務局からお願いがございます。議事録作成のため、本協議会の録音や記録用の写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。また、分倍河原駅周辺まちづくりに係る委託事業者の(株)首都圏総合計画研究所の担当者も本協議会に同席しておりますので、併せてご了承ください。以降の議事進行につきましては、会長である森本委員をお願いしたいと思います。それでは、森本会長よろしく申し上げます。

### 2 議題

【会 長】 ただいまから、第6回府中市都市・地域交通戦略推進協議会を開会いたします。まず、本日の委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

(事務局より出席状況の報告)

【会 長】 続きまして、傍聴者の有無について事務局から報告をお願いします。

【事務局】 本日の会議につきましては、12月15日号「広報ふちゅう」において告知し、2人の傍聴希望者がおりました。

【会 長】 傍聴希望者がおりますので、傍聴を許可してよろしいでしょうか。それでは、傍聴者の入室までしばらくお待ちください。

(傍聴者の入室)

【会 長】 それでは、事前にお配りした次第にしたがいまして、次第2「議題」に移らせていただきます。進め方としましては、まず議題(1)について

でのみ事務局から説明いただき、意見交換を行います。その後、議題(2)(3)について事務局から一括して説明いただいた後、再度意見交換を行いたいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

(議題(1)について、配布資料に基づき事務局より説明)

【事務局】 ここで、まちづくり協議会の会長を務めている、山岡委員からもお話しをさせていただきたいとのことですので、お時間を少しいただきたいと思います。

【委員】 協議会の会長をしております山岡と申します。今年は協議会を3回行いました。副市長には2回ご出席いただき、大所高所から、また専門的なお話をいただきありがとうございました。1回目、2回目は色々と議論しましたが、もう少し十分な理解をしたいということで、私が市と相談し、議論を重ねて第3回につなげたという感じです。内容は、駅周辺の整備、主に駅前広場を中心に色々のご意見をいただいたので、第3回において更に詳しい説明をしていただいたと思います。その時、協議会員から意見をいただき、今回の市の整備方針は十分理解し、共感できるという結論に達しました。ただ、今後の駅前のにぎわいづくりに関しては、もっと協議を活性化していかななくてはいけないという結論に達し、市と協議会で共有できました。大変チャレンジングな項目ですが一生懸命やっていきたいと思っています。

【事務局】 ありがとうございました。以上で議題(1)の説明を終わります。

【会長】 行政から丁寧な説明をしていただき、協議会を6月、8月、11月と継続して3回開催し、委員から説明があったように全体として了解いただいたということと、にぎわいづくりを積極的に進めてほしいという市民意見があったとお聞きしたところですが、皆様から質問はありますか。(意見なし)まちづくり協議会との連携はこれから続いていくものだと理解をしています。引き続き連携を取りながら進めていただければと思っています。

では、議題を移らせていただいて、議題(2)と(3)について事務局から一括して説明をお願いします。

(議題(2)(3)について、配布資料に基づき事務局より説明)

【会長】 それでは質問や意見をお受けしますが、オンラインで参加されている方はご質問がありましたら手を挙げる機能か、もしくは直接声を出してください。

【委員】 質問が2点あります。1点目は、満足度を評価指標に入れるのは非常に良いことだと思いますが、ステップ1とステップ2ではプラスアルファになっていますが、今後数字を決めていくのか、また決めていくとしたらいつ頃までに決めるのかを教えてくださいたいです。

2点目は、資料3の図面の中で商店街がにぎわい軸となっていますが、商店街の中の歩行者動線と自動車動線をどうするかは、今後まちづくり協議会と協議しながら決めていくという理解でよろしいでしょうか。

【事務局】 補完指標のまちの拠点整備に関する満足度については、数値は具体的にお示ししていません。理由としては、満足度ということでどれだけ上

がるかは、ある意味全部の施策に絡むので、具体的な数値ではなく今よりも整備によって満足度を上げていくという表現をしています。どこかの時点で数値を決めることは今の時点では考えていませんが、具体的な数値を設定した方がいいというご意見等がありましたら、内部で検討させていただきたいと思っています。

資料3の商店街のルール決め方ということですが、参考資料2をご覧いただきたいと思います。一番上のまちづくり協議会は、地区全体のまちづくりを考えていくものです。一番下の地区計画等検討会は、まちづくりのルールを専門で検討する場として設定させていただいているものです。その下の区域図の商店街区域の中で、商店街の皆様や関係者さん、またまちづくり協議会の皆さんにも参加していただきながら、自転車の押し歩きなどのルールの内容を考えていただいています。

【委員】 1点目の質問のプラスアルファは今後数字を入れるものではなく、これを増やしていきたいという意味のプラスアルファということですか。

【事務局】 具体的に数値は示していませんが、表現方法については、内部で検討して次回ご報告できればと思っています。

【委員】 分かりました。2点目の質問については、商店街区域と北西側住宅区域があり、この中で検討をしていくことになるということですね。資料3の歩行者動線と自転車押し歩き動線が駅前広場のところで線が止まっていますが、一般的に言えば商店街も当然歩行者動線になるのではないかと考えています。これはまだ書いていないだけなのか、今後検討してこれを延ばしていく可能性があるのかどうかをお伺いします。

【事務局】 商店街の動線が書かれていないところですが、歩行者動線と自転車の押し歩き動線を将来加えていくというのが資料の見え方としては正しかったと思います。自転車の押し歩き動線については今後の検討によるところですが、歩行者動線については商店街のところも記載すべきだったと見直しています。

【委員】 分かりました。ありがとうございます。

【委員】 ご指摘のとおり商店街も歩行者動線に含まれると思いますので、にぎわい軸を丸で囲ってホットエリアのような感じで表示すれば、歩行者動線の表示と重複しないと思います。

先ほど参考資料2を見せていただきましたが、地区計画等検討会やまちづくり協議会が数多く開催され、地元との交流がかなり深くなされているのではないかと思います。今後、都市・地域交通戦略を活用してハード整備等を行っていくと思いますが、整備後は地元のまちの方々に使っていただくことになると思いますので、引き続き地元との連携を大事に進めていただければ、より良いまちにつながっていくと思います。

以上を踏まえて、私は今年度からの参加で過去の経緯は存じ上げていないのですが、資料7のスケジュールに記載されているとおり、令和4年度に実施プログラム等を見直されている事項等があれば教えていただきたいです。

それから、令和7年3月に改定を予定されるということですので、今からでも新しく見直した方がいいなとか、地元から出てきた意見を踏まえてこういったプログラムを実施した方がいいなということがあれば、教えていただけると幸いです。

【事務局】 令和4年9月に鉄道事業者と基本協定を締結することができて事業スケジュールが明確化し、資料4のステップ1、ステップ2の区切りの年度も分かってきて、目標とするところが見えてきました。令和4年度にも、プログラムをこのように変えていきたいというところを市では準備していたのですが、十分に議論する時間を確保するため、令和5年度から6年度にかけて検討していただくこととしています。

今回の改定は、プログラムの年度の進捗状況に合わせた変更と、評価指標の検討の2点に絞って行う予定で進めています。

【事務局】 少し補足させていただければと思います。分倍河原駅周辺では大きなまちづくりを進めているので、進める過程の中で変化があればその変化に合わせた形で取り組んでいこうと考えています。そこで、新しいプログラムの設定等の検討の必要性が出てくるというのは、ご質問いただいたとおりです。

分倍河原駅周辺のまちづくりの進め方としては、平成30年に地元のまちづくり協議会からまちづくり提案書をいただき、同時期に都市・地域交通戦略を策定しました。市としては、まちづくり提案書と都市・地域交通戦略を反映して、まちづくり基本計画という総合的な計画を定めています。こういう流れを経て、分倍河原駅周辺のまちづくりを進める上で、施策が適正な状況で掲げられていると考えているので、今のところ新しいプログラムの追加は考えていません。しかし、今後どういうことが起きるか想定できないところ、社会の変化が大きく変わるなど、色々ありますので、必要な場合にはご質問いただいた内容も検討してまいりたいと考えています。

【委員】 新しくハード整備を加えるとなると結構大ごとだと思いますが、地元のルールなどでしたら柔軟に対応できるのではないかと思いますので、地元の方々との連携を通じて検討いただければありがたいです。

【会長】 私からも意見があります。施策の2-3で商店街の自転車の押し歩きの検討をこれから始めるということで、商店街は一般車両の進入や荷捌き用の車両の通行にも供されていると思いますので、一般車両についてもある程度のルール化の検討していただきたいというのがお願いです。

加えて、参考資料2において、商店街テナントを対象とした荷捌き車両や時間帯制の議論を始めますといった文言を見て取れます。将来的に駅前商店街は歩行者専用道路にしたいという意図があるならば、共同の荷捌き駐車場の進入路としてしまうと、歩行者の専用道路にはなり得ないので、最終的な到着点を見据えながら議論を始めていただきたいと思います。今はどういう議論になっているのでしょうか。

【事務局】 商店街区域につきましては、車両について具体的な規制をかけていくというところまでは議論が至っていない状況です。一方で、まちづくり提案書では、荷捌き駐車場の確保や車両の規制などの提案をいただいています。まず、現状を調べて、実際に市ができるのか、地元ができるのかといった方法を検討するためにアンケート調査に着手している状況です。

【会長】 最終的に商店街をにぎわい空間にしたいという地元の意見がありますので、一般車両、物流車、自転車を含めて将来どういう形に持っていきたいのかということと併せて議論していただきながら、ぜひいい解決策を見いだしていただきたいと思っています。

【委員】 資料6の自駅乗降客数については、ポストコロナを見据えて目標値を見直しますとあります。コロナが発生してから輸送人口が大きく落ち込み、大分回復はしてきたといえども、コロナ前に比べれば8割から9割という感じです。今後もコロナ前まで戻るかというところとどうだろうというのが、何となく業界として考えているところです。今回の場合、目標値を変えるのであれば、スタートはポストコロナの人数という想定になるのかなと思いつつ、これから検討すると思いますが、増える方向で考えているのか、それとも横引きなのでしょうか。今後は、少子高齢化で電車に乗る人がまた減るだろうと業界的には思っていますが、市のお考えを伺えればと思います。

【事務局】 当初は、人口も含めて増えるということでの目標値の設定をしたと思います。一方で、コロナ禍において乗降客数が減り、近年社会動態自体も変わっているというところは私たちも把握しています。ここについては他自治体等も扱いが難しくなっていると聞いていますが、減るか増えるかというところまでは中々予測が難しいです。人口については、分倍河原の地域はやや増加した後に減っていくと想定されていますが、鉄道の乗降客数については、現在のところ動向を注視するという表現に留めています。

【会長】 乗降客の減少は首都圏全体の傾向ですので、南武線と京王線だけの話ではないと思うのですが、原因の大半はオンライン会議がかなり定着していることにあり、そういった意味でコロナが収束しても戻らないだろうという予測もありますから、2割減とは言いませんが1割減ぐらいのところまで戻ればいいのかという感じもしています。コロナが5類になった時点あるいは来年度時点ぐらいを基準にして、3.5%、10%という目標がよろしいのではないかと思います。どのような感じでしょうか。

【委員】 感覚的には多分そうだろうなと思います。

【会長】 他にいかがでしょうか。特に手が挙がらないということでしたら、大体意見が出尽くしたと判断させていただきたいと思います。では、議事を進めて、その他に入りたいと思います。

### 3 その他

【事務局】 事務局から次回開催についてお知らせします。次回は令和6年2月28日水曜日の午前11時から、こちらの会場で開催する予定となっています。内容は、今日評価指標についてご意見いただきましたので、改めて考え方を整理させていただくとともに、交通戦略の改定について具体的な話を進めていければと思っています。

【会長】 議題としては以上ですが、最後に言い忘れた点があればお受けしますがいかがでしょうか。

【委員】 最後に議論になっていた自駅乗降客数についてですが、3.5%をどの時点で持ってくるべきか、各鉄道事業者における全体の乗降客数の変化率と分倍河原という特定の駅の変化率を比較するべきなのか、そもそも人数と率のいずれを目標値として設定するべきなのか、というような観点もあるかと思っていますので、踏まえて検討いただければありがたいです。

【会長】 どこを評価対象にするかということで、この場所をある時点を切って伸びるかというのであれば、他のやっていない場所に比べると当然伸び

るはずだよねという観点から、他の場所との対比というのものもあるかもしれないという、そういうご意見ですね。

【委員】

はい。

【会長】

その辺の数値も併せてご検討ください。満足度についても、他のエリアの数字も気になります。例えば上手く整備が終わった駅の満足度の数値があると、あそこはこのような感じかと感じ取れますので、次回の見直しの時には参考数値として示していただければと思います。

それでは、本日の府中市都市・地域交通戦略推進協議会はこれをもって閉会とさせていただきます。

以 上